

琵琶湖森林づくり基本計画 進行管理および基本指標等達成度に対する点検・評価シート

I : 基本施策【基本指標】

		H15(現状)	H24	H25	H26	H27	H28	進捗状況	H32 (長期目標)	達成率評価 (長期目標)	達成評価 (長期目標)	評価理由	審議会意見	対応方針
<b>1 環境に配慮した森林づくりの推進</b>														
(1) 琵琶湖の水源地の適正な保全・管理の推進	111 民有林に占める保安林面積の割合(累計)(%)	33 達成率	35 40%	35 40%	35 40%	36 60%	36 60%	森林の多面的機能を高度に発揮させるために、新たに156haを保安林に指定した。 累計は65,634haで民有林の約36%である。	38	C	★★★	3項目を均等に評価し、★3つとした。	意見なし	琵琶湖の水源地の適正な保全・管理を推進するため、今後も保安林の指定や森林整備に努める。また集約化に必要な所有者の特定や境界の明確化に一層取り組むこととする。
	(112) 治山事業による保安施設整備割合(累計)(%) ※保安林面積に対する保安施設整備面積の割合 ※H26までの指標	49 達成率	58 56%	58 57%	58 57%		65							
	112 治山事業による保安施設整備面積(累計) ※H27からの指標	31,795ha 達成率				37,774ha 58%	37,945ha 60%	荒廃林地の復旧・予防等により県土の保全と保安林機能の増進を図るため治山事業による保安施設整備を実施した。厳しい予算事情の中で災害発生箇所の復旧を優先するなど効果的に実施した。 154ha(46箇所)	42,100ha	C				
(2) 持続可能な森林整備の推進	121 除間伐を必要とする人工林に対する整備割合(%)	64 達成率	62 69%	66 73%	56 62%	64 71%	64 71%	間伐実施の実施時期に大量の積雪があったことから、年度内の事業完了が難しくなったことが、面積が伸びなかった大きな要因の一つである。また、事業実施に当たり、境界確定等に多くの労力・時間を要しており、今後も林地の集約化に一層取り組む必要がある。 1,717ha(64%)	90	B				
(3) 生物多様性の保全に向けた森林づくりの推進	131 下層植生衰退度3以上の森林の割合 ※衰退度3は半数以上の森林で高木の後継樹が消失、傾斜地では約10%の森林で強度の土壌浸食が発生する衰退度	現状(H24) 達成率	20 0%	- -	- -	- -	- -	※計画改定にともなう新しい指標。この指標については前回調査から5年後(H29)に調査します。	10	-				
<b>2 県民の協働による森林づくりの推進</b>														
県民の主体的な参画の促進	(211) 森林づくり活動を実践している市民団体等の数(団体・累計) ※H26までの指標	30団体 達成率	127団体 81%	139団体 91%	163団体 111%				150団体		★★★	2項目を均等に評価し、★3つとした。	・交流会について、山村振興という観点から山村地域で行われているが、集客という観点からも考えるべき。	・「山村地域に足を運んでもらう」とのコンセプトは継続したいので、集客増のため以下の工夫を検討する。 ①交通の便の良いところでの開催 ②他イベントとの共同開催 ③参加・体験型などイベント内容の改良 ④広報の強化
里山の整備・利活用の推進	(221) 里山整備協定林の数(箇所・累計) ※H26までの指標	0箇所 達成率	13箇所 33%	14箇所 35%	14箇所 35%			40箇所						
(1) 多様な主体による森林づくりへの支援	211 協定を締結して整備する里山の箇所数(累計) ※H27からの指標	0箇所 達成率				169箇所 56%	200箇所 67%	里山を保全活動フィールドとして活用するだけでなく、ニホンジカ等の獣害被害軽減対策としての緩衝帯整備や防災機能向上のために整備に取り組む地域も増え、里山を管理する体制が広がっている。	300箇所	C				
(2) 県民の主体的な参画の促進	221 びわ湖水源のもりづくり月間の森林づくりへの参加者数	1,583人 達成率	10,618人 82%	10,290人 79%	11,845人 91%	11,430人 88%	6,675人 51%	4,000人程度の参加者があった交流会を、平成27年度の10回目を区切りで廃止したため、目標を大きく下回る結果となった。その後継として山村振興に資する交流会としたが、都市部からの集客に課題が生じた。	13,000人	C				
<b>3 森林資源の循環利用の促進</b>														
(1) 県産材の利用の促進	311 県産材の素材生産量(m3)	32,000m3(H20) 達成率	59,000m3 49%	62,000m3 52%	56,000m3 47%	54,000m3 45%	76,000m3 63%	素材生産量は、前年54千m3から22千m3増加し76千m3で、内訳は、製材用が1千m3増の21千m3、合板用が増減なしの9千m3、木材チップ用が21千m3増の45千m3であった。今後も引き続き、幅広い利用や需要に応じていけるよう、目標達成に向けて、素材生産の一層の拡大に取り組む必要がある。	120,000m3	C	★★★	達成率63%のため★3つとした。	意見なし	素材生産量の伸びは主にチップ用材の生産量増加による状況。今後も引き続き、幅広い利用や需要に応じていけるよう、目標達成に向けて、素材生産の一層の拡大に取り組む。
<b>4 次代の森林を支える人づくりの推進</b>														
(1) 森林所有者等の意欲の高揚	411 地域の森林づくりを推進する集落数(集落)	25箇所 達成率	80箇所 80%	82箇所 82%	89箇所 89%	97箇所 97%	118箇所 118%	森林経営に積極的に取り組む森林所有者等を育成するために、林業普及指導員が中心となって、市町や森林組合、林研グループなどと連携して、情報提供や技術指導等を行った。	100箇所	A	★★★★	2項目を均等に評価し、★4つとした。	意見なし	引き続き森林所有者へ森林づくりに対する意欲の高揚を図るとともに、集約化施策を推進するため、境界明確化や森林施業プランナーなどの人材育成を支援していく。
(2) 森林組合の活性化	421 森林組合の低コスト施業実施面積(ha)	80ha(H20) 達成率	438ha 31%	436ha 31%	530ha 38%	590ha 42%	664ha 47%	森林組合に対して、集約化施策を推進するために、森林境界明確化に重点的に取り組んだり、森林施業プランナー研修や作業道オペレーター研修など行ったことにより面積増となった。今後も森林所有者への周知を強化し、集約化の拡大に取り組む必要がある。	1,400ha	D				

達成率の計算方法

①実績が単年のもの： H28実績値/H32目標値  
 ②実績が累計のもの： (H28実績値-H15現状値)/(H32目標値-H15現状値)  
 計算例 ①311県産材素材生産量 76,000/120,000=63%  
 ②111保安林面積割合 (36-33)/(38-33)=60%

個々の取組みの達成率の評価 A：90%以上 B：70-89% C：50-69% D：30-49% E：30%未満

基本施策・戦略プロジェクトの達成率の評価 ★★★★★：90%以上 ★★★★★：70-89% ★★★：50-69% ★★：30-49% ★：

琵琶湖森林づくり基本計画 進行管理および基本指標等達成度に対する点検・評価シート

II : 戦略プロジェクト【6年間の取り組み】

		H26(現状)	H27	H28	進捗状況	H32(目標)	達成率評価	達成評価	評価理由	審議会意見	対応方針
1 環境に配慮した森林づくり推進プロジェクト	1-1 除間伐等の森林施業を実施した森林の面積	2,227ha 達成率	2,938ha 95%	2,354ha 76%	間伐施業等の実施時期に大量の積雪があったことから、年度内の事業完了が難しくなったことが、面積が伸びなかった大きな要因の一つである。また、事業実施に当たり、境界確定等に多くの労力・時間を要しており、今後も林地の集約化に一層取り組む必要がある。	3,100ha	B	★★★★	4項目を均等に評価し、★3つとした。	・森林被害については、基本指標においては「下層植生衰退度3以上の森林の割合」を目標に掲げており、本年度調査を実施しているところ。次年度にこの指標の達成度を示す予定。	
	1-2 境界明確化に取り組んだ森林面積(累計)	1,023ha 達成率	1,436ha 7%	1,745ha 12%	H27から、県・市町で構成する協議会を設置し、情報共有等を図るとともに、先駆的に取り組む市町を支援するなど、境界明確化を図っているが、目標達成は難しい状況である。引き続き市町・森林組合といった多様な主体による取り組みを推進していく。	7,000ha	E				
	1-3 ニホンジカの捕獲数	14,374頭 達成率	13,950頭 87%	16,279頭 102%	平成28年度の積雪の状況は、湖東地域では多かったが、湖北地域、湖西地域では、適度な積雪により餌を求めるシカが奥山から視野に移動したため捕獲効率が向上するなどによって、捕獲目標を達成することが出来た。(平成28年度の捕獲目標:16,000頭)	16,000頭 (H32の目標15,000頭)	A				
	1-4 生物多様性に配慮した治山・林道工事の箇所数	46箇所 達成率	57箇所 76%	60箇所 80%	緑化資材の種子配合や現地伐倒材の使用など、動植物の生息・生育環境など生物多様性に配慮した治山・林道工事を、前年度よりも多く発注することができた。	75箇所	B				
2 県民の協働による森林づくり推進プロジェクト	2-1 活動をPRする森林づくり団体数(累計)	68団体 達成率	76団体 9%	80団体 13%	森づくり活動団体のネットワーク化と情報を一元的に発信することにより、活動の活性化を目指している。新たに4団体の情報を「森づくりネットしが」に掲載した。	160団体	E	★	2項目を均等に評価し、★1つとした。	意見なし	企業と森林所有者双方のニーズを把握し、情報提供を行うなどのパートナー協定のマッチングを図れるよう努める。
	2-2 琵琶湖森林づくりパートナー協定(企業の森)締結数(累計)	23箇所 達成率	23箇所 0%	23箇所 0%	企業と森林所有者とが「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を締結し、企業から提供いただいた資金によって森林整備が実施されたり、びわ湖環境ビジネスメッセでブースを出しPRをしたが、契約まで至らずゼロであった。	35箇所	E				
3 森林資源の循環利用促進プロジェクト	3-1 びわ湖材を使用し整備した木造公共施設数	16施設 達成率	10施設 50%	12施設 60%	びわ湖材を使用し整備された木造公共施設は、9市で12施設(保育所3、幼稚園2、こども園1、県整備施設4、市整備施設2)で、びわ湖材が活用された。今後更に市町ほか関係機関との情報共有や連携を図りながら、公共施設へのびわ湖材利用が促進されるよう普及啓発に取り組んでいく。	20施設	C	★★★★★	3項目を均等に評価し、★4つとした。	・木造公共建築物でのびわ湖材利用を進めるため、積極的に普及を行うべき。 ・木材協会などの関係団体と協議するなどして、びわ湖材の県内での需要創出を図るべき。	・国体・全国障害者スポーツ大会の開催に向けて整備する体育館などの施設をはじめ、今後県内における公共施設で可能な限りびわ湖材が活用されるよう、関係者と連携し普及に努める。 ・関係団体と積極的な連携を図り、CLTの活用、木質バイオマス利用、県産材製品の開発等を進めることにより、びわ湖材の新たな需要創出に取り組んでいく。
	3-2 びわ湖材認証を行った年間木材量	32,109m3 達成率	36,865m3 57%	46,244m3 71%	びわ湖材を取り扱う認定事業者は、平成28年度末時点で164者、認定した木材量は、46,244m3(対前年度9,379m3の増)となった。引き続き「びわ湖材」の普及と認証制度の理解を醸成できるよう取組を支援する。	65,000m3	B				
	3-3 木材流通センターとりまとめによる原木取扱量	10,012m3 達成率	17,818m3 45%	31,629m3 79%	県内各森林組合および造林公社との連携をすすめ、B材を中心にC材の取り扱いも増えたことにより、前年度より13,811m3の取扱量の増となった。今後も引き続き、需要者ニーズに安定して応えていけるよう取扱量の増、需要の開拓などの取組を支援する。	40,000m3	B				
4 次代の森林を支える人づくり推進プロジェクト	4-1 認定森林施業プランナー数(累計)	16名 達成率	24名 57%	26名 71%	森林施業プランナーの技術、知識の向上を支援しており、技量が一定水準にあることを示す資格取得の必要性が周知されてきた結果、新たに2名の合格者が追加された。	30名	B	★★	3項目を均等に評価し、★2つとした。	意見なし	森林施業プランナーなどの人材育成や自伐型林業の推進を行うとともに、特に木育について、幅広い世代に対し県産材利用等への理解が深まるよう、積極的な普及を行っていく。
	4-2 自伐型林業育成研修の開催数	4回 達成率	10回 67%	7回 47%	自伐型林業を目指す県民、グループに対し、森林施業を始めとした指導、支援を行っている。新たな支援事業の実施により7回の開催を行った。	15回	D				
	4-3 乳幼児に向けた「木育」に取り組む市町の数	0市町 達成率	2市町 11%	5市町 26%	平成28年度は木育のスタートとしての県産材使用の食器、玩具の提供等を行うウッドスタート支援事業を、3市町(長浜市、東近江市、多賀町)で実施した。また、ウッドスタート宣言を行った民間企業で、栗東市と東近江市の店舗に加え、彦根市の店舗に木育コーナーが設置された。県内における「木育」の幅広い取組につながるよう、研修会の開催等により、「木育」の普及啓発を進める。	19市町	E				

達成率の計算方法

- ①実績が単年のもの:  $H28\text{実績値} / H32\text{目標値}$
  - ②実績が累計のもの:  $(H28\text{実績値} - H26\text{現状値}) / (H32\text{目標値} - H26\text{現状値})$
- 計算例 ①除間伐等の面積  $2,354 / 3,100 = 76\%$   
 ②境界明確化の面積  $(1,745 - 1,023) / (7,000 - 1,023) = 12\%$

個々の取組みの達成率の評価 A: 90%以上 B: 70-89% C: 50-69%  
 D: 30-49% E: 30%未満

基本施策・戦略プロジェクトの達成率の評価 ★★★★★: 90%以上 ★★★★★: 70-89% ★★★: 50-69% ★★: 30-49%